

社長のひとりごと【高齢者住宅】

全ての「社長のひとりごと」がWEBで読める!
「くぼかわよしみち.com」毎月20日更新!!

くぼかわよしみち.com

検索

ホームページ

- asahiglobal.co.jp
- gloval-mie.co.jp
- super-chintai.com
- goldtrust.co.jp
- goldage.co.jp
- kubokawayoshimichi.com

agg-hd.co.jp



難しく言うと「適合高専賃」。しかし、簡単に言えば「老人ホームの新型」ですね。

アサヒグローバル株式会社 代表取締役
 ゴールドトラスト株式会社 代表取締役
 ゴールドエイジ株式会社 代表取締役
 文／久保川 議道
 text:Yoshimichi Kubokawa

私の家は輸入住宅なので、ダイニングとリビングに段差。書斎と廊下にも段差。そしてこの段差で祖母は転けて2回目の大腿部骨折で、2回目の手術でした。94才で亡くなりましたが、鉄のボルトで固定された2本の足で不自由しながらも最後まで自力で歩いてくれました。

私は今もこの家に生活しています。が、毎日、毎日「この段差」を見るたびに、「これさえなければ…おばあちゃんは今も残念な思いになりますね。」

しかし皆さんご存知でしょうか? 日本の住宅の二戸建は100棟に3棟しかバリアフリーの家はないのです。なんと97%の97棟が「段差だらけ」の家なんです。そこで「老人が転ける」、そして病院に入院して、3ヶ月以内にお亡くなりになるのが二年間で7483人です。ちなみに高齢者の交通事故致死は4878人ですから、外を歩くより、家の中がもっと危ないんですね。もう一つ、借家住宅のバリアフリーは0.3%なんと1000戸に3戸しかないと言いうことも知っていただきたいと思えます。

さてもっと恐ろしいことは老人は一度入院すると、筋力が弱って普通の

生活には戻れませんし、入院中に体が衰弱して肺炎などでお亡くなりになることが多いのです。ですから、事故が原因で3ヶ月以上たつてから亡くなる高齢者が10倍とも20倍とも言われています。

20倍なら年間15万人もの老人が「家庭内の段差」で転んで、お亡くなりになつていけると言ってもけつして大げさな話ではありません。私の祖母だけでなく、どこの高齢者も「家の中での事故」が「命取り」になつているんですね。

老人ホームの新しい形。老人ホームの新型の「ゴールドエイジ」は、トイレもお風呂も、ダイニングもリビングも、「1ミリの」段差もありません。壁面はすべて手すりだらけで、これでは転けたくても、転けられませんね。

それと歩いたり、食事をしたり、高齢者が移動する時は、専門のヘルパーが、じつと「見守り」をしていて、危ない時には「介護」に入ります。また夜中にベッドから落ちたりしたら、ナースコールで夜勤の担当者が、すぐに部屋まで「介助」にかけつけますし、動けなくなつても、夜中に3回の「見回り」をしますから安心です。

私の家のお風呂は一般のご家庭より大きかったのですが、祖母一人をお風呂に入れるのに、一家総動員でもう戦争でした。一般の家庭で介護の必要な高齢者を「お風呂に入れる」ことは、まず不可能ですね。しかし一人が入ると「溺死」が一番危ないので、難しいものです。

「ゴールドエイジ」のお風呂は5種類です。介護度の高い人は「機械浴」。車椅子のまま入れる「スロープ浴」。なんとか自分で入りたい人は「手すりだらけ浴(?)」。自立で健康な人は、2・3人で楽しく入れる「一般浴」。それと完全個室で入りたい人は「ユニットバス浴」ですね。

自立の人以外は、すべてヘルパーの「介護付き」ですから高齢者の事故がなくなつて「安全」で「安心」で「楽しい」最後の生活です。高齢者が怪我をすると、取り返しがききませんからね。

今年、私の母は79才になりましたが、「ゴールドエイジ」に入りたいと言つて、今引越しの準備をしています。祖母の二の舞になるより、それもいいこと…かもしれないね。感情的にはともかく、高齢者の事故防止は最優先なんですから…。